

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ年-18,000円]

1997年(平成9年)9月5日 No. 1067

目次

1997年1~6月の日口貿易	1
キーパーソン	6
民営化担当コフ副首相の蹉跌/6	
ホームページ拝見(2) ロシア外国投資促進センター	7
統計速報	8
1997年1~7月のロシア経済/8	
データフラッシュ/8	
CIS諸国通貨の最新為替レート	8

1997年1~6月の日口貿易

はじめに

今回の速報では、大蔵省発表の通関実績にもとづき、1997年1~6月の日本とロシアの貿易データをお伝えする。

今年の春以降、日ロ経済関係を取り巻く環境は顕著に改善されてきている。3月から4月にかけて実施されたロシア内閣改造の結果、日ロ二国間貿易経済委員会のロシア側議長に、ロシア政界の若手ホープ、ネムツォフ第一副首相が就任した。そして、6月にはネムツォフ氏が来日して日ロ政府間委員会が開催され、これを機に総額1億ドルの日本輸出入銀行による対ロ融資3件が調印されるなどの進展をみている。7月には、トヨタ自動車が1999年をめどにモスクワで商用車の合弁生産に乗り出すというビッグニュースも飛び込んできた。

さらに、7月24日には橋本首相が、①信頼、②相互利益、③長期的視点という対ロ外交の新たな3原則を表明、協力の具体例としてシベリア・極東地域の天然ガス開発にも言及した。秋に予定される首脳会談により、日ロの関係拡大にさらに弾みがつくものと期待されている。

しかしながら、対ロ・ビジネスの気運が盛り上がるのと反比例するかのよう、肝心の日ロ貿易は心許ないパフォーマンスを続けている。今年に入って、出だしこそまずまずだったものの、4月頃から再び陰りがみえ始めた。円建てでみると、1997年1~6月の日ロ貿易額は前年同期比9.0%増だが(輸出2.6%増、輸入10.5%増)、ドルに換算すると3.8%減となる(輸出9.7%減、輸入2.5%減)。高まる気運と低迷する実績、このギャップが解消されるのがそう遠くない将来であることを願いたい。